

2022年6月21日

住友理工、「第1回 ローカル5G/IoT活用展」に出展

～バイタルセンサーとバイタルデータ解析・活用プラットフォームを出品～

住友理工株式会社（本社：名古屋市中村区、代表取締役 執行役員社長：清水和志）は、6月29日（水）から東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催される「第1回 ローカル5G/IoT活用展」に株式会社 GENECH DATA SOLUTIONS（本社：京都市中京区、代表取締役：美馬芳彦）と共同で出展します。

本展示会では、当社独自開発の柔軟なゴムでできた「SR センサ」技術を応用したバイタルセンサー「モニライフシリーズ」を展示し、実際に体験いただけます。



薄くて柔らかい素材でできた「モニライフ™」は、眠りを妨げずに質の良いバイタルデータ（体動に基づく、心拍や呼吸データなど）を取得できるとご評価いただいています。

昨年10月には、取得したデータをクラウドサーバー上で共有するサービス「モニライフ・プラットフォーム」のβ版を公開し、ホテル宿泊者に睡眠レポートを提供したり、空調や照明を制御し、快眠空間を提供したりするサービスにもご活用いただいています。

<出展概要>

展示会名	第1回 ローカル5G/IoT活用展
会期	6月29日（水）～7月1日（金）
会場	東京ビッグサイト 西展示棟

<展示品紹介>

モニライフシリーズ

>>モニライフ・ウェルネス（バイタルセンサー）

モニライフ・ウェルネスは、就寝時などにバイタルデータを計測することを目的に開発した製品です。薄くて柔らかいのが特長で、マットレスに置いて寝るだけで使用可能で、就寝を妨げることはありません。



>>モニライフ・モビリティ（ドライバーモニタリングシステム）

当社独自開発の「SR センサ」をクッション形状に加工してシート上の座面に設置し、「SR センサ」で計測した座面の圧力変化から、座るだけでドライバーの心拍・呼吸状態および体の動きなどを検知します。測定値から、疲労や居眠り、急病予兆などドライバーの状態を推定し、警告や運転支援システムの作動、外部への通報などのサービスへとつなげます。



>>モニライフ・プラットフォーム（クラウドサービス）

モニライフ・プラットフォームは、モニライフ・モビリティやモニライフ・ウェルネスなどで測定したバイタルデータを蓄積・解析するためのクラウドサービスです。大学との共同研究で開発した独自アルゴリズムによって、「睡眠の質」や「睡眠状態」も推定することが可能です。



イメージ

- ※ 「モニライフ・プラットフォーム」のβ版は、センサ本体をご購入いただいた方に限り、当面の間、無償で公開しております。ご利用にあたっては、あらかじめ利用規約への同意が必要となります。
- ※ 半導体供給不足の影響を受けており、納期、価格については個別にご相談させていただきます。
- ※ 「モニライフ」は住友理工株式会社の商標です。

以上

―― 住友理工について ――

住友理工は1929年に創業し、名古屋市中村区に本社を置くモノづくり企業です。2014年に東海ゴム工業から社名を変更しました。自動車（モビリティ）分野では、振動を制御する世界トップシェアの防振ゴムのほか、ゴム・樹脂ホースや、ウレタン製の制音品・内装品を製造。自動車部品の開発で培った技術を生かし、インフラ・住環境、エレクトロニクス、ヘルスケアの各分野でも事業を展開しています。世界20ヶ国以上に広がるグローバルネットワークを活用して、人・社会・地球の安全・快適・環境に貢献する“Global Excellent Manufacturing Company”を目指しています。

リリースに関するお問い合わせ先
住友理工株式会社

広報IR部 / 〒450-6316 名古屋市中村区名駅一丁目1番1号 JPタワー名古屋
tel 052-571-0259 e-mail product.info@jp.sumitomoriko.com <https://www.sumitomoriko.co.jp/>